

リーザ
という女

For Adult Only



GREAT ACTA

精霊と勇者、聖櫃を巡る戦いが古の神話となり果てて…

時は現代、動乱の世―

西方の軍事大国・ロマリアが世界の覇権を手にすべく、世界各国へ侵略の手を伸ばし、またそれに抗う『アーク』なるテロリストがロマリアに与する施設を破壊して回る…

ロマリアに程近い、静かな山国・フォーレス―

その辺境に『ホルン』という小村があった

ホルンは少数の村民が、酪農や高地農業を生業としている簡素な村である

しかしある伝説によつて、ホルンは

フォーレス国内では有名な地であった…

即ち『ホルンの魔女の伝説』



リーザという少女がいた
ホルンに生まれ育った彼女には、
魔女の伝説どおりに、生まれながらに
不可思議な力が宿っていた

『人も、草木も、動物も、生き物は皆
感情を持って生きている』

ホルンの力は、生き物の感情を読み取り
また彼我の心を繋げ通じ合わせ、
相手の心に働きかける事もできる。
言葉など交わさなくとも…

リーザは特にホルンの血を色濃く受け継いでおり、
その高い魔力は、ロマリア軍の

キメラ研究機関の目に留まってしまふ

村は軍に蹂躪され、リーザは家族と引き離される

呪いの力は、少女を生涯に渡って苦しめる事に
なるのかと思われた。しかし…

リーザは一人の少年と出会う
誘拐され、ロマリアの施設へと送られる
飛行船にて出会った、
歳若い、ハンターギルド所属の少年…

少年に手を引かれ、ロマリアから逃れたリーザ
少年と旅をし、共に過ごす日々の中で彼女は、
彼の心に自分と同じ…いや自分のそれ以上の
孤独と苦しみ、
後悔を抱えている事を知る



ホルンの力は、他者と心で繋がる能力—
リーザはこの力を持って、少年と心を通わせ、
悲しみを癒す助けになれたなら…と、
仄かに願うようになる

また、粗暴に振る舞いながらも、
弱気の自分を気にかけてくれる
彼の生来の優しさと微かな愛に触れて、

リーザはこの少年に強く惹かれていった…



しかし、リーザの初恋も

唐突に、残酷に終焉が訪れる

少年が幼き日に味わったトラウマー

いつか救うと約束した少年の想い人の存在…

少年は自らの過去に向き合い、因果を断ち切るべく

因縁の地へと向かう…

ロマリアのキメラ研究機関の一角

『白い家』

『白い家』に踏み込んだ少年が

目のあたりにしたのは、

人ならざる兵器へと改造された、

かの想い人の哀れな末路だった…

二者の悲しい戦いののち、

少年の腕の中で自爆させられた少女

そして粉々に破壊される少年の心…

リーザはただ、恋した少年の心が死ぬのを

見ている事しかできなかつた…

…

悲痛に哭くリーザの頭上に轟音が鳴り響く

警報がテロリスト『アーク』の襲来を告げていた

見上げた青空を浮かぶ銀色の飛行船

その船底からおびただしい数の爆弾が降り注ぎ、

悲劇の白い家は跡形もなく破壊された…

それから

今、リーザはアークの下にいた。

目の前で恋する少年と、

彼への想いが打ち砕かれたリーザには、

ある決心があつた

テロリスト・アークに協力し、ロマリアの暴虐を終わらせる。

家族も生活も、人生に初めて光を差してくれた人をも奪い、

世界中に悲劇をばら蒔き続けるロマリアを、

リーザは心の底から許しておけなかつた…

意思だけで、戦う力も無い少女が採れる、

唯一できる、巨大な国家との戦い方を

このアークは示してくれた

それは…体を捧げる事

リーザには、アークを支援し、秘密裏に協力する

各国の反ロマリア勢力とのコネクションを、

より強固なものにするという使命が与えられた

ハンターギルドが裏で仕切る、女の汚れ仕事を

専門的に請け負う存在となり、

アークの指示に従って各国を飛び

ある国では男の権力者にかしずき、

肉体でもって奉仕する

ある国では中立の勢力に取り入り、

性技をもつて籠絡する

それは娼婦であり、作業員でもあり、

言い伝えの中の『魔女』の生き方そのものだった

少女のリーザには思いもよらない事だったが、
少女にのみ出来る事もある

特に可憐な容姿を具える少女には…

リーザは心を決めた

この身を捧げる

かの国に呪いをもたらす

魔女になると



ここはアララトス、
ガザルア郊外の娼館の一室、
リーザはここで娼婦としての振る舞いと性技を、
若い調教師から学ぶ事になった

リーザが処女を捧げる事になったのは
この宿に勤務する調教師の青年

彼は悲壮感漂わせるリーザに対し
真摯な態度で接し、生き方を尊重もした。

この男にファーストキスも、後日アナル処女も
捧げている。殆どの性の初経験を、自由意志で
一人の男に委ねられたのは、

娼婦になる女としては恵まれているかもしれない

月明かりの中で睦みあう少女と青年
初々しい女の反応の中に、
才能の片鱗みたいな
ものが既に見え隠れしている

初めてだというのに、
すぐに痛みより性感が
勝ってきた様子だった

初めての中出し…

リーザが最初の調教で学んだのは、
娼婦にとって、精液を体内に注がれることは、
ごく当然という意識を持つ事である



初夜があけてリーザは本格的に調教を受け始めた
まずは奉仕精神。娼婦であるからには
男にリードしてもらおうプレイは出来ない
女の自分が腰を動かし、膣道を締め上げ、
射精を促すのだ

娼婦リーザの、一番に客の目を引く特徴は
何といてもその胸である

童顔に不釣り合いな、大げさな巨乳。

これの奉仕のリクエストが殺到するのは
目に見えているので、パイザリの訓練は日毎
入念に重ねられたという



昼夜とわず繰り返される
調教に次ぐ調教…
リーザは次第に、
この日々密かに
喜びを見出すように
なっていた
もちろん、かの国への
復讐と、少年への想いを
忘れたわけでは
ないのだが…

生物の感情を読み取るこの特性は、
肌と肌で触れ合う事でより強力に発現する
…これはリーザが
娼婦としての
天性を持つと
示している

男が気持ち良いのかそうでないのが
細やかに分かるし、
相手の一番の性感帯を
探し当てる事もできれば、
そこを刺激すると
痺れるほどの快感が
肌から伝播してきて
リーザをこの上ない幸福へと誘う…
射精される瞬間には、男と
同等そのものの悦楽を
味わう事ができた

そして何より、そんな自分に男が抱いてくれる
愛情そのものが、孤独だったリーザには
心地よくて堪らなかったのだ



しかし悦楽だけが娼婦の仕事ではない
特にリーザは、制限なし、特別娼婦と
なる身だ

調教は更に過激な領域に突入し、
普通の少女には、普通の娼婦ですらも
味合わない経験を容赦なく積まされる…

スカトロ調教

窓から月光が注ぐ
ベッドルームから
地下独房へと寝所を
移されたリーザ…
大量の浣腸液を腹に入れられ

苦痛に耐えさせられる
責め苦にすぐに
へたばる様では
奉仕は勤まらない

人目の前で盛大に排泄姿を晒す
背徳的な開放感と羞恥心に打ち震える…
さらには排泄物を用いるプレイを仕込まれ
糞尿への抵抗感を極限まで低下させられる。

体に塗り、頭から浴び、口に含み…
顧客の中に少なからず居るであろう、
深淵の嗜好にも徹底的に順応させられた…

次いでSM調教

柔肌に縄が食い込む痛み
吊りて肺が圧迫される息苦しき…
特別な娼婦のリーザに
求められるのは
時に残酷な
『肉体破損の美しさ』
でもある

それにとまなう裂傷、脱臼、火傷…
それを自分で治療し、再び体を
提供できるように、
医学的知識・技術をも
身に付けさせられた

責め苦に最後まで耐える、
体力と心構え。
何より、苦痛を快楽に
昇華させるマゾに
染まるべく、意識改造を
丹念に施される

調教も佳境に入ると、リーザは実際に娼館に立ち、客をとるようになった。男をその気にさせる話術や、体の距離感、一期一会で体を重ねる、独特の空気感を、経験として吸収していく。

そして輪姦にも慣れさせられる。調教でなく蹂躪。奉仕でなく凌辱…穴という穴を、同時に塞がれ続けるリーザ。しかし娼婦にはそれが普通だと認識させられる。望まれば、ただの肉袋として振舞う、自分は人ではなく精液便所だと自覚する…

処女でこの地へやってきたリーザ。約半年間、性交し続け、調教の日々を経て、経験人数は二〇〇人を越え。

桃色だった小さな蕾も、真っ赤に熟れたザクロへと変わる。性技も作法も心構えも、全て飲み込み、心身に深く刻み込んだ。そしてホルンの力も、受け入れ、奉仕のために振るう事も躊躇う事はない。

リーザは娼婦として生まれ変わる。

卑しい遊具に成り下がる、その惨めさすらも、快楽に変換出来る事が必要…汚れた体にも、男に気持ちよく射精してもらえるように、男の嗜虐心を刺激する言葉を吐き、腰をふり回し痴態をさらす…

娼婦リーザの評判は、早くから上々であった。

まず何よりその容姿―

幼さを湛えながらも、端正な顔立ち

透き通るような長い金髪

豊満な乳房、主張する尻

男の劣情を誘うには、

この上ない女体である

加えて彼女との性行為そのものにも感嘆が集まった
これはやはり彼女のホルンの女としての特性が
いかに振るわれるのが大きいであろう

最初はアルディアやグレイシーヌの権力者、商人との
いたってオーソドックスなプレイが主な仕事であった
ここではリーザの奉仕精神が発揮される

磨きこまれた性技の数々も、男たちを大いに楽しませた



多少の変態的な要望にも、
踏み込んだ過激な求めにも、
等しくリーザは調教の成果を持って
見事に応えた

…若干の気恥ずかしさも滲ませながら
新人娼婦ゆえの照れであろうが、
しかしそれが余計に
男たちの寵愛を引き出す

リーザが権力者たちと
蜜月で結ばれ、
裏ではアークに武器や資材が回る…

リーザは己が奉仕で、少しでも世界を変えようと
精いっぱい戦いを始めた



ギルドの裏ルートを通じて、
リーザには様々な仕事が舞い込み
それを悉く
請け負う事で
彼女は色々な界限に
コネクションを築いていった

例えば、ニードルの闘技場での
見せ物、モンスター相手の
獣姦ショーに出演。
これは世界中でリーザにしか
務まらないであろう
……ホルンの力が無くては
命の保障も無い

大手興業者との繋がり確保
劇場舞台でのストリップ、
公開自慰や
セックスショー



炭鉱、刑務所での
慰安婦の仕事もあった
リーザは権力者の愛人として
豪華なベッドで踊る事もあれば、
地下で精液便所として市井の
男達の慰み物にもなるのである

一般的な娼婦の範疇を超えて、
体を開き続けるリーザは
裏社会では高名になっていく



娼婦として歩み始めて

4年が経過。

元々歳の割には

かなり豊かだった彼女の乳房は

今や見るも見事な爆乳に育っていた



思春期の直中からの性開発か、

はたまた彼女の肉体的、魔力的な素養の発露か…

純朴さを残していた田舎美少女の面影はなく

完璧な淫売の体に変わってしまった

…だがリーザ自身、この胸は好きだった



大きすぎて日常生活にも

支障が出るし、

将来堅気に戻って

暮らせないほどに、

淫らに極まる肢体だが…

リーザは気にしなかった

気にしないようにしていた

だけかもしれないが…

胸で搾り取った精液の

ほろにが味は、リーザにとって

一番の心の栄養である



彼女にとっては男を惹き付け、

喜ばせる体を持つ事は、

至上の命題である

どんな巨根もすっぽり丸ごと

包み込み、射精へ導く事が出来る

理想の娼婦の女体は誇らしかった

世界各国を巡り、合瀬を重ねるリーザ
今回、祖国であるフォーレスでの仕事を
請け負う事になった。いたって普通の仕事のはずだったが…



豪華なベッドの上で、リーザは乱れに乱れた…
感じるままに快楽を口にし、
外に喘ぎ声が漏れようと構いはしなかった

男は噂に聞く以上の、娼婦リーザの淫蕩ぶりに舌を巻く

…リーザは何故か、今までにない程の不安感に駆られ
淫乱で、卑しい娼婦であるこの身を誇示する事で、
どうにか自分を保とうとしているようだった…

仕事に取り掛かる直前、
リーザは思いがけない再会を果たす

この少年、リッツは
リーザの古い馴染み、
数少ない友達であった。
いや、友達以上、姉弟のような
特別な結びつきをお互いに
感じていたかもしれない…かつては。

彼女が娼婦になる以前、
アークの元で純粋に、力で
ロマリア軍に抗っていた時期
リーザをホルンの魔女だと
知った上で受け入れ、
慕ってくれた
ただ一人のフォーレスの子…



それから4年がたったが、
無邪気に再会を喜び
変わらずに慕ってくれるリッツ

しかし裏社会で生きる娼婦と
変わった彼女は、昔のように
無垢な交流に興じる訳は
いかなかった。自分はもう、
この子とは違う世界の住人なのだ…

夜、人気のない街道を行くリーザ
高級住宅街の、一軒の屋敷の前に立つ
依頼人の男に肩を抱かれ、
大きな屋敷の中に消えるリーザ

そんな二つの背中を、見つめる
小さな影が…



リーザはリッツの前では努めて普通に振る舞っていたがやがて朝になって街に帰らない日が多くなった

屋敷の主人のベッドで朝まで過ごし入浴と少しの休眠ののち、リーザは子供たちの世話をする様になっていた
子守りと言っても相手はリッツより2、3年長の少年たちで、しかも裸

将来大物になるであろう貴族階級の少年たちにかしずき、作り笑顔で痴態を晒す

部屋内では爆笑が起こり、次いで投げかけられる様々な罵倒と嘲笑…
リーザは子供たちのおもちやだった

この子らは皆、リーザが数日前に筆下ろしした少年たちで、ちんぽも未成熟であればセックスの技量も毛ほどもないただ体力と快感のまま腰を打っただけである

リーザも快楽を得られるでもなく喘ぎ声もほとんど演技だった

…が、心は不思議と満たされた

逃避—
自分は汚れた身で、無垢なリッツに本心では向き合えず、愛すべき弟に対して、姉として振る舞えず、仕事忙しいから…と、使える言い訳が与えられて、安堵する卑しい存在
さらに卑下に扱われる程、惨めさが快感に変わってしまう、調教されきった、どうしようもないマゾ性…

今のリーザはおもちやであればある程、楽に生きられたただ仕事に没頭し、体を疲れさせ続け、フォーレスを発つ日を無心にして待つだけだった…

小便かけ、カンチョー、肉布団、実に子供らしい性暴力に、体をはって応えるリーザ…
勿論セックスでの肉体奉仕も欠かせない興奮が最高潮に達した子供たちの前で、オマンコとケツアナを拡げて見せる



フォールレスでの日々も2週間が経ち
リーザがこの国を離れる時も
近づいていた、そんな時…

いつになく一緒にいたいと

せがむリッツ

リーザは付き合ひ、

夜まで団らんに興じ、

そして真夜中…

男の元へ行くこうとするリーザを
ついにその言葉が呼びとめた



背中越しに聞くその声は力強く、しかし涙で震えていて、
そしてその言葉は、告白だった…
リーザが初めて投げ掛けられる、恋慕の言葉…
一緒にいたい、守りたいという真つ直ぐな好意
それを発しているのは、確かに
彼女が幼い弟だと思っていたリッツだった…

しかしリッツは子供らしい理想論をならべて
リーザを引き留めようとする…

結婚して、自分が人一倍働いて、

リーザが辛い仕事をしなくて済むようにと

それは叶えようも無い望みである

…心が痛かった



リーザは、
どんな顔して振り向いただろうか
どんな言葉をかけてあげられようか
どうして自分は心の底から娼婦であり、
魔女であり、誰とも結ばれない女と
諭す事ができるだろうか…



月光差し込む狭いベッドルーム
二人の男女は見つめあったのち、
静かに抱き合う

その時リーザは、初めてリッツの心に触れた
自分へと真つ直ぐ向けられる情愛を
はつきりと感じ取れる…
その心地よさがただ悲しかった…

愛に報いるすべを、少女のまま娼婦になった
リーザは、一つしか知らなかった

この日、リーザは初めて仕事を放棄した
恋人との大切な一夜を過ごすために
依頼人の下へは行かなかった…

そして朝陽が昇り、リーザはベッドで深く眠るリッツへと
小さく言葉をかけると、彼の前から永遠に姿を消した

その後も各国で仕事に邁進するリーザ
しかし彼女の心境はどこか変化しようだった...

今回依頼を受けてやってきたのはアルディア、
プロディアス郊外のしがたないアパートである
その一室に住む依頼人。一般人だった



彼の望みはリーザとの夫婦生活...
のロールプレイ。

2週間にわたり二人は

新婚夫婦として、一つ屋根の下で
共同生活を営む事になった

男は以前リーザを見かけ、
一目惚れからの今回の指名だったという
しかし、彼の妻への愛は本物だった



そしてリーザも、会ったばかりのこの夫を
長年想いあつたパートナーであるが如く
深く深く愛した...

フォーレスでの
仕事から帰って以来、
リーザは自分では
抑えきれない程、
愛を渴望している事に気づく

娼婦として
生きる事を決め、
それから5年もの
歳月が経った今、
心の奥底に閉じ込めた想いが
どうしようもなく
疼くようになった...

自分には望むべくもない
夫との愛ある生活の幻...
それを分不相応にも
求めてしまう己を恥じ、
男に尽くして尽くして、
得られる報酬としての愛で、
自分の浅ましい心を
塗り潰してしまいたかった

そして男は、
そんなリーザの献身に
ますます情愛が燃え上がる。男にとっては
この愛は決して報酬などではないのだが...
言葉も交わさず、体も清めず、食事もそこそこ、
ただ混ざり合う男女



閑話休題
リーザの脇・陰毛の話

大きく育った胸の他に、娼婦リーザの個性として、
痴部の毛が濃い、という密かな事実があった
こちらはリーザにとっては純粋なコンプレックスである…

処理は一日二回要する
朝 ベッドを抜け出して
夕 ベッドに入る前

1日で目立つ程伸びるし
一週間もすれば
恥ずかしいほどの
茂みになってしまう…
娼婦として痴毛を
剃るのは当然であるが、
リーザは頻度と濃さに
苦勞していた

しかし客の中には奇特な者も
少なからずいるのである
美しいリーザの、あえて醜態を
見たいという不埒な男…

その仕事中には痴毛の処理を禁止。
瞬く間に茂っていく様を堪能し、撮影もする
人前で全裸も排泄姿すらも晒す
リーザであるが、何故かこれほど
羞恥心を煽られるプレイはなかった…

ベテラン娼婦の柄になく、
顔を真っ赤にし弱々しい声で哭くリーザ
それが客にとって最高の艶姿に映るのである

リーザが娼婦になって6年が経ったー

数々の男と契り 合瀬を重ねたホルンの少女

体からあどけなさは消え、

すっかり淫猥な女体へと変わったが

彼女の仕事ぶり、献身ぶりは変わらず盛況で、

国を跨いで、未だ沢山の権力者との

繋がりを持ち続けていた

しかし突然ー

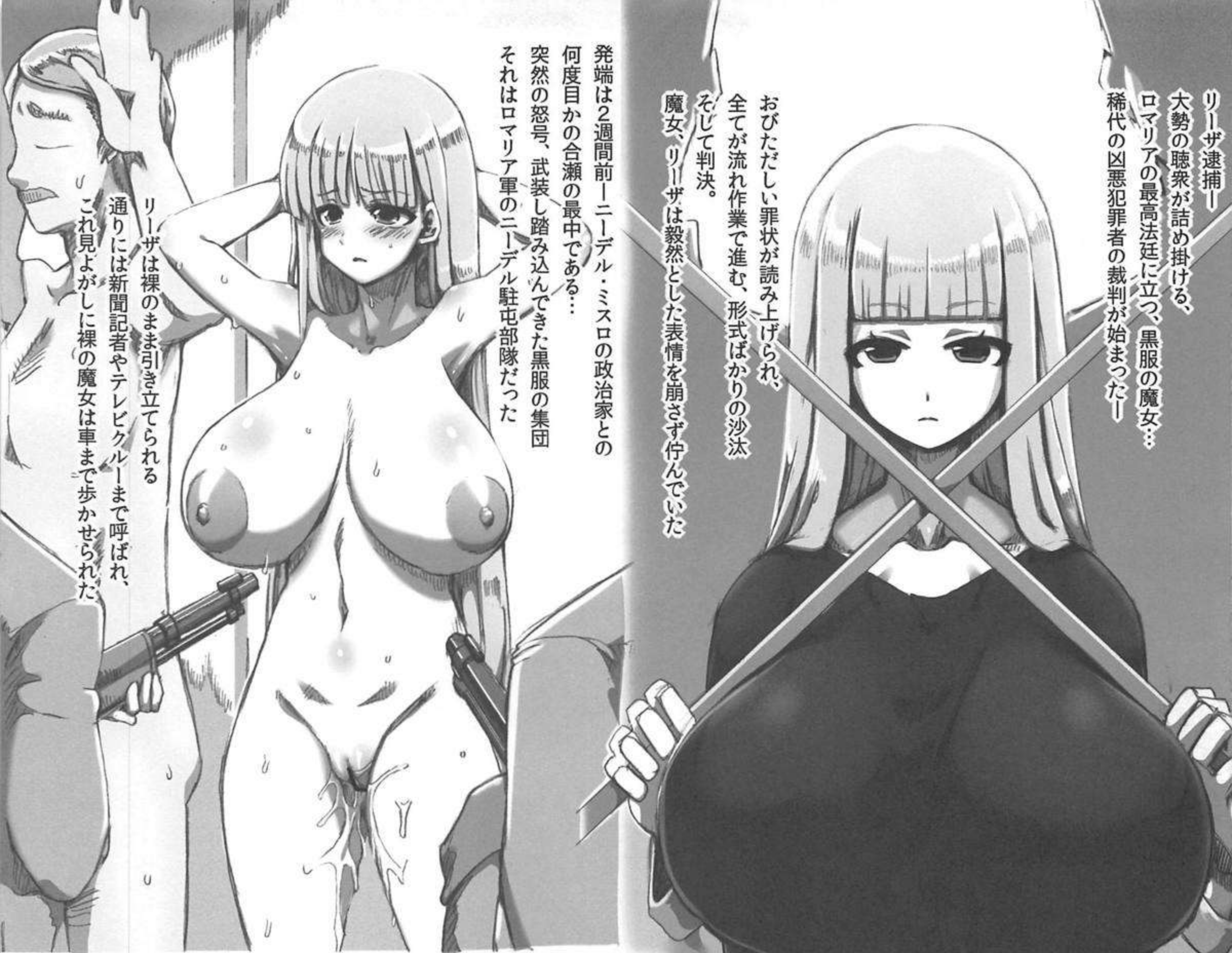


リーザ逮捕—
大勢の聴衆が詰め掛ける、
ロマリアの最高法廷に立つ、黒服の魔女…
稀代の凶悪犯罪者の裁判が始まった—

おびただしい罪状が読み上げられ、
全てが流れ作業で進む、形式ばかりの沙汰
そして判決。
魔女、リーザは毅然とした表情を崩さず佇んでいた

発端は2週間前—ニーデル・ミスロの政治家との
何度目かの合瀬の最中である…
突然の怒号、武装し踏み込んできた黒服の集団
それはロマリア軍のニーデル駐屯部隊だった

リーザは裸のまま引き立てられる
通りには新聞記者やテレビクルーまで呼ばれ、
これ見よがしに裸の魔女は車まで歩かせられた



魔女には人権はなかった
世界を破壊せんとする『アーク』の一味
肢体を持って世界中に墮落をもたらす、
最低最悪の淫売の烙印
リーザは連行、拘置、本国まで護送、
軍事裁判所出廷までの間、
一切の着衣を禁じられた

どこでも尋問の名を借りた暴行が恒常的に行われ、
尋問以外にも四六時中凌辱され、休息も取れなかった





1ヶ月後の執行日までできるだけいたぶり回し
罪の重さを自覚させる事…
アークの手先の魔女に下されたのは
前代未聞の陵辱刑であった

ロマリア軍本部基地内の政治犯収容所に捕らわれ、
昼夜とわず暴行、輪姦、拷問が兵たちによって行わる
どうせ処刑されるのだからと、命すら省みられない



リーザの死刑が決まった
しかもただの死刑ではない。



寒空の下、傷だらけの裸体を晒し、
食事も汚物塗れ、もしくは与えられない…

リーザは日々繰り返される、肉体への
致命的な加虐に耐え続けた…

しかしそれより彼女を真に苦しめたのは
心への加虐―

彼女のホルンの力が呪いとして
これ以上なく発現した結果の事だ

生物の感情を感じ、他者と
心を通じ合えるホルンの力…
娼婦として男たちに
尽くしている時、それは
リーザに性感以上の
幸福を与えてくれた

しかし、これには
自分に向けられる
負の感情をも読み取ってしまう
側面もある。かつてホルンの女たちが、
外界から味わったような、畏怖、蔑み、
恐怖の視線をも…

そして今、リーザが晒されているのは
何十何百もの、自分に向けられる
『殺意』であった―

死刑執行の日が刻一刻と迫り、

リーザの心の死の瞬間も、等しく近づいていた

判決から1ヶ月が経ったー
今、リーザはロマリア郊外の処刑場で、
磔にされている
足場も無い丁字架への磔…

普通であれば、数日持たずに
死ぬ事になる
自重で肩関節が外れ、次第に肩から腕の筋肉が壊死
四六時中痛みに苛まれ、眠ることもできない
飲まず食わず、雨や寒風に晒され続け
防衛本能が、酷使の果てに機能停止し
全ての内臓が衰弱していく…

これでリーザの生涯は終わる事であろう…
リーザは死の淵にて、朦朧とした意識で
思考を重ねていた
それは夢か、または走馬灯かもしれない

故郷の事 家族の事 初恋の思い出
別れの痛み 決意…
娼婦として生きる事。
何も出来ない生娘だった自分
性技を仕込まれ、奉仕の喜びを知り
快楽を受け入れ、愛を振り撒き、愛を受け取り
人を傷つけ、償いから逃げた
後悔—

数えきれない程に触れあってきた男たちの体…
一度も触れられなかったあの少年への想い…
様々な想い、体に刻まれた記憶が
色鮮やかに浮かび出でては消えてゆく
最期に心に残った少女の気持ちは、

リーザの死刑が執行され、
淫売魔女の最期は
全世界に向けて発表された

数ヶ月後、リーザの体は驚異的な回復を遂げ、
生殖機能を擁する成人女性としては
極めて健康体にまでなった

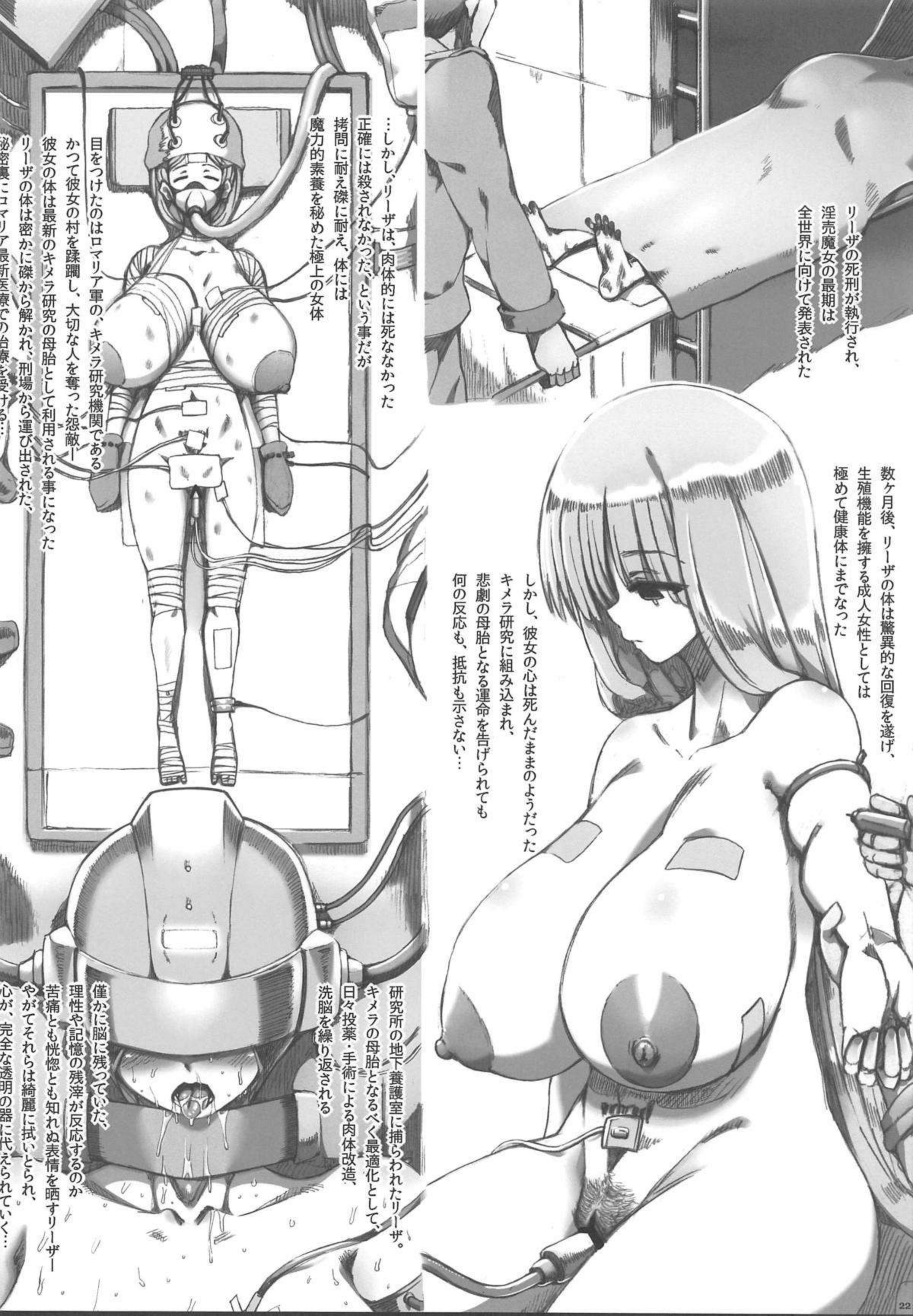
しかし、彼女の心は死んだままのようだった
キメラ研究に組み込まれ、
悲劇の母胎となる運命を告げられても
何の反応も、抵抗も示さない…

…しかし、リーザは、肉体的には死ななかった
正確には殺されなかった、という事だが
拷問に耐え礫に耐え、体には
魔力的素養を秘めた極上の女体

研究所の地下養護室に捕らわれたリーザ。
キメラの母胎となるべく最適化として、
日々投薬・手術による肉體改造、
洗脳を繰り返される

目をつけたのはロタリア軍の、キメラ研究機関である
かつて彼女の村を蹂躪し、大切な人を奪った怨敵―
彼女の体は最新のキメラ研究の母胎として利用される事になった
リーザの体は密かに礫から解かれ、刑場から運び出された、
必死裏こゴマリア最新医療での治療を受ける…

僅かに脳に残っていた、
理性や記憶の残滓が反応するの
か
苦痛とも恍惚とも知れぬ表情を晒すリーザ―
やがてそれらは綺麗に拭いとられ、
心が、完全な透明の器に代えられていく…



やがてキメラの母、リーザの体は完成し
濃密な繁殖サイクルが始まった

彼女に施された処置として、まず体の内部からの
大規模な改造。手術、投薬を繰り返して、
全身の汗腺からあらゆるモンスタースター種に
作用するフェロモンを分泌する体に。
乳房、尻は最大限オスの性欲を煽るために肥大化された

あらゆるモンスタースターの雄を魅了し
つがいとなる事ができ、1日15時間程度続けて
交尾に勤しめる体力も備えられた

下半身、特に膣まわりは
あらゆる形状の生殖器を受け入れるため、
筋組織から弄られ、極めて柔軟に。
脳内麻薬が垂れ流し状態で、四六時中
発情状態。恒常的に排卵し、
非常に着床しやすい卵子と子宮にも変えられた

精神は極めて単純化され
リーザとして生きた記憶は残っていない
本能：三大欲求が全ての行動原理となり
中でも性欲が最上位に設定されている

リーザは魔女ならぬ、魔物の一種へと成り下がり
生前にあれば忌避していたロタリア軍の兵力増強に
臨んでいく事になる……

種付けは1週間〜3週間で完結し、着床後は子宮に成育機械、脳に催眠装置に繋がれる事によって胎児の成長は爆発的に加速され、およそ3ヶ月で出産を迎える

産みの痛みは人の女性と変わらないようで、縛られて胎児をひり出すリーザは、この時だけ唯一人間らしさを醸していた…

産み落とした子は極めて高い魔力数値を示し、キメラ研究者らは大いに喜んだ。産後、母性を発現させないよう赤子はすぐに取り上げられ、すぐさま隔離室で投薬による体調回復と生理調整、洗脳で脳内リセット。1日程のスパンを置いて、次の夫に宛がわれる

魔女の処刑から3年の月日が流れ、リーザは日の当たらない地下分娩室で、キメラの子を産み続けていた…

産んだ子が10体を超えたところで、さらなる研究の段階として、リーザの子とリーザをつがいにし、子を宿す試みが行われるようになった。未成熟児や奇形児の出産になる可能性が高いが、その子は従来のモンスターの規格には収まらない。高い魔力の素養を持つ事が期待された

リーザは、初めて産んだ子とつがいになり、子を宿すという禁忌を背負わされようとしていた…

が、もはや人ではない今のリーザにとっては禁忌などどうでもよく、子も夫も金属棒も、瞳に快楽を与えてくれるだけの存在に過ぎない

どれ程の歳月が流れたのか……
地下研究所に突如、警報と破壊音が鳴り響く――
壁が崩れ、火の手があがり、
瞬く間に建物も人も全てが炎に包まれる

―地上の地獄を見下ろす一隻の銀色の船があった
それは少しの間、その胴体に赤の炎を映していたが、
やがて夜の闇に溶け込んで消えていった

しかも腹にはキメラの子が宿っていた
自らの子とまぐわい作った、
禁忌のモンスターの子が……

そして心は完全に
消えているように見える
体の回復は果たされたのに
目を覚まさないのは
その心に、
現実に目を向ける力が
残っていないからだ
もしかしたら、
このまま永遠に……

リーザは今、トウヴィルの神殿で眠りについていて

長い年月をかけて、アークの手によって

再び外の世界に戻る事ができたリーザ

ククルの神秘の力によって癒され、生命の安息は得たものの……

しかしその体に刻まれた傷痕は、悲惨そのものであった

彼女の体は、隅々まで人ならざるものへと
造り変えられている……見た目一つとっても、
もう普通の人としては生きられない程
ぶよぶよに引き伸ばされた肢体……服の下には
男に劣情でなく、畏怖を抱かせるような
変形しきったグロテスクな秘部……

夏の日差しの差し込む病室には
汗として発散されるフェロモンと、
やたら甘ったるい母乳の香りが満ちている
内蔵も変えられているのだ。
消化器と排泄器も変わっているようなので
人の食べ物も受け付けられないかもしれない……

かつていたリーザという女。

はじめは一人の少年に恋した、
素朴な少女だった

やがて少女は、想いを秘めて、
娼婦へと生まれ変わり、

沢山の男たちと結ばれ離れ、
沢山の愛を知り、愛の中で生きて、

そして

一片の愛もない暗闇の中で、
魔女として死んでいった。

リーザという女の物語は、これで終わる

…訳ではない。

全てを喪失したと思われた彼女に残された、
たった一つの実

—母親であるということ—

彼女の子は、眠る母親の胎内ですくすくと育ち
力強く子宮の壁を叩き、覚醒の時を待っている。

赤子の目覚めによって、
母リーザもまた目を覚ますだろうか

…

子が親にもたらず、唯一特別な愛の力を持って



リーザという女

発行日：2019年4月29日

発行元：GREAT芥 <http://acta.sblo.jp/>

著者：tokyo twitterID：Yurukage

印刷：大陽出版株式会社様 ※18歳未満の閲覧を禁止



2019 Spring
Presented By
GREAT ACTA